

令和8年度水道事業会計予算について

塩竈市上下水道部業務課・上水道課

令和8年3月17日



1. 予算案概要
2. 水道料金収入の推移
3. 予算の特徴
4. 補てん財源・純利益
5. 主要な令和8年度建設改良工事
6. 令和8年度水道管路更新事業について

1. 予算案概要

収益的収入：前年度と比べて約40万円の減。
人口減少及び節水器具の普及のため、今後も収益が下がり続けるものと予測。

収益的支出：前年度と比べて約1,930万円の減。
平成初期に大規模投資した水道管の減価償却費の減少と、8年度に実施予定だった修繕工事の施工内容の見直し等により、支出を抑制したことが主な要因。

資本的収入：前年度と比べて約670万円の減。

資本的支出：前年度と比べて約2,710万円の減。計画に基づいて市内各所の整備・更新を行う。

令和8年度予算

収益的収支	収入	1,629,458千円
	支出	1,572,509千円
	収支	56,949千円
	純利益(税抜)	10,937千円

資本的収支	収入	432,457千円
	支出	968,974千円
	収支	△536,517千円

令和7年度予算

収益的収支	収入	1,629,849千円
	支出	1,591,796千円
	収支	38,053千円
	純利益(税抜)	155千円

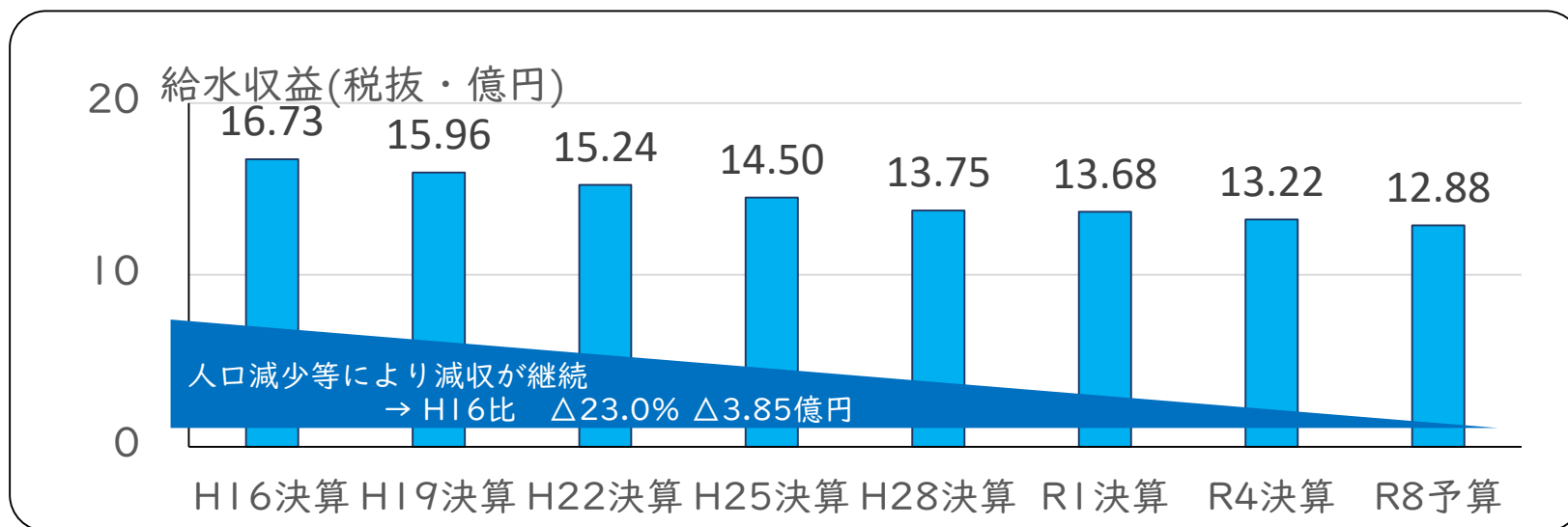
資本的収支	収入	445,383千円
	支出	996,064千円
	収支	△550,681千円



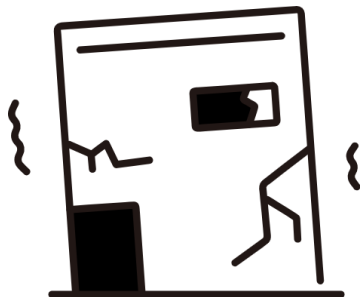
2. 水道料金収入の推移

水道料金収入は収益的収支の約8割～9割を占めている。
少子高齢化による人口構成の変化、生活様式の変化、節水器具の普及及び節約志向の高まり等により、減少が続いている。

給水収益の遷移

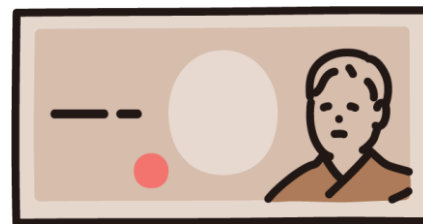


3. 予算の特徴



浄水場は更新
他施設は老朽化対策 & 耐震化

以下の費用を計上
共同浄水場 & 送水管布設に係る費用
経年劣化が進む水道施設の更新と耐震化のための費用

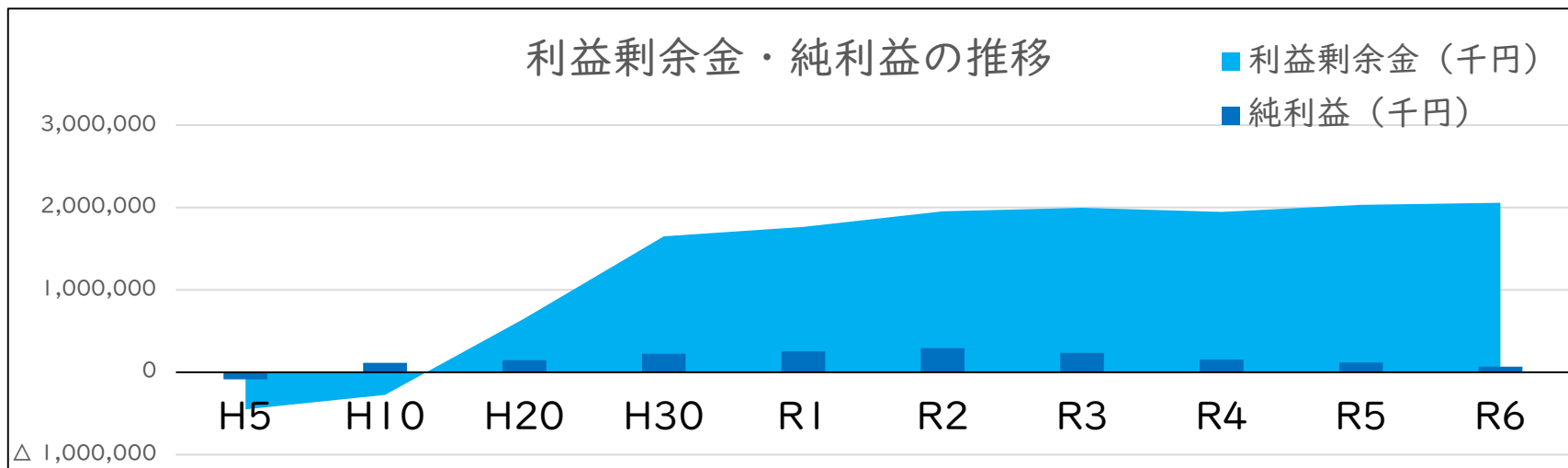


国庫補助等を活用した財源確保
細部の支出抑制による健全収支の維持

補助制度の最大限活用
事務用品に至るまで費用縮減を実施済
施設の再整理 & ミニマム化等により維持
管理費用・更新費用の圧縮に努めるが、
その余地がなくなっている

4. 補てん財源・純利益

- 補てん財源（利益剰余金）はH9年度の料金改定により増加、今は現状維持。
- 純利益は減少。水道料金の減に対し、減価償却費、維持管理費が増。
- 建設改良費は需要が増加。施設の老朽化が進んでいる。
- 物価高騰の傾向が継続。今後、浄水場更新や配水池の改良工事が控える。



5. 主要な令和8年度建設改良工事

仙台市との共同浄水場関係費用の他、梅の宮浄水場の設備の更新や水源維持に伴う負担金。また今年度では、浦戸朴島の水質監視に係る遠方監視装置を整備する。

ろ過池の洗浄設備等の更新

108,900千円

- ・ろ過池の砂・砂利を洗浄するための設備更新。従前は、ポンプを使用していたが、安全面や費用面で有利とされる、動力を使用しない「自然流下洗浄方式」に変更する。
- ・ポンプの単純更新費の凡そ半分で整備可能。

9,600千円

- ・浦戸朴島の水質監視に係る遠方監視装置整備

共同浄水場関係等

(維持管理負担金、基本設計負担金等)

111,000千円

- ・仙台市との共同浄水場に係る設計費用
- ・単独送水管の基本設計費用

47,300千円

- ・ダム堰堤改良費や共同導水施設の更新費



6. 令和8年度水道管路更新事業について

1. 全体計画

令和6年1月に発生した能登半島地震を起因として、これまで以上に災害に強い水道施設へ更新する必要性が求められている。本計画は、国の交付金制度を活用し、重要路線の耐震化を図り、安心安全な給水の確保と災害に強い水道施設を整備するもの。

- ・事業年度：令和8年度～令和17年度
- ・口径：D=50～600mm
- ・総事業費：3,140,261千円
- ・計画延長：L=3,510.0m

2. 令和8年度事業概要

事業費：330,997千円

No	事業箇所	種別	口径	延長	摘要
1	清水沢三丁目外1 地内	耐震化	D=600mm	L=50.0m	国庫補助
2	権現堂 地内	耐震化	D=200mm	L=150.0m	国庫補助
3	錦町 地内	経年（舗装復旧）		A=1,760㎡	単独

